

校長 北村 徹

2学期始業式 令和6年8月27日

勝負には勝者と敗者がありますが、結果にかかわらず全力の真剣勝負の世界は尊く美しいものです。この夏もオリンピック、高校野球、それから皆さんの試合など多くの感動を与えてくれました。

同時に誹謗・中傷が問題となりました。心ない言葉が選手に向けられ、大きな問題となったことも報道され、皆さんも御存じのことと思います。

先人は言葉を大切にしてきました。

その一例として「忌み言葉」というものがあります。

結婚式や葬式の挨拶では使わない言葉があります。

また普段でも河原に生えている「葦」(あし)という植物は発音が「悪い」という意味の悪しともとれますので、縁起が悪いということであえて「よし」という呼び名となっています。

さらに受験生にとっての不合格を想起させる「滑る」「落ちる」という言葉についても同様です。

私は25年ほど前に美方高校で進路の担当をしていました。センター試験、今の共通テストの受験のためにバスで小浜の県立大学に生徒を引率しました。いざ受験会場に到着した際に、1月の低温で雪が凍った状態でしたので、運転手さんが「滑らないように」とはおっしゃられずに「足下にお気をつけください」とひとりひとりに声をかけてくださいました。その心遣いに感謝したことを鮮明に覚えています。

SNSが発達した今日では、配慮不足から誹謗・中傷の加害者になってしまう可能性が誰にもあると思います。

そういう時代だからこそ、一言発する前に、細かい気遣いで、相手が不快にならないように、失礼がないように真剣に考えなければいけないと思います。

もうひとつ挨拶の話題です。本校は挨拶が活発で来校者の方から大変好評でした。しかし最近、挨拶が少し下火になったのではないかという声を聞きました。

本校へ来校されるお客様、作業をしていただいている工事の関係者の方々、OBの方や地域の方々など多くの人に学校は支えられています。

感謝や礼を尽くすためにもその入り口としての挨拶の習慣は普段から誰にでも行えるようにしてほしいと思います。この機会に今一度振り返って見てください。

まだ暑さは続きそうですが、学校祭や体育祭の行事を皮切りに皆さんにとって重要な2学期を元気に過ごせますようお祈りし、式辞といたします。